

史跡甲立古墳の実像を探る

安芸高田市歴史民俗博物館
沖田健太郎

1. 発見から史跡になるまで甲立古墳（確認調査の成果から）

- 所在地 安芸高田市甲田町上甲立字江田
- 立地 山塊斜面
- 比高 60 m（山麓から）
- 墳形 前方後円
- 規模 墳長約 78 m
- 外表施設 葺石、埴輪列、石敷区画
- 埋葬施設 墳頂中央で検出（平成 23 年度）掘方規模は 7.8 m× 2.8 m 長軸は南北方向、深さなど詳細不明
- 出土遺物 円筒埴輪（普通、朝顔、楕円）形象埴輪（家、蓋、甲冑、船）
- 築造時期 古墳時代前期末頃（4 世紀後葉から末葉）

2. 確認調査後の課題

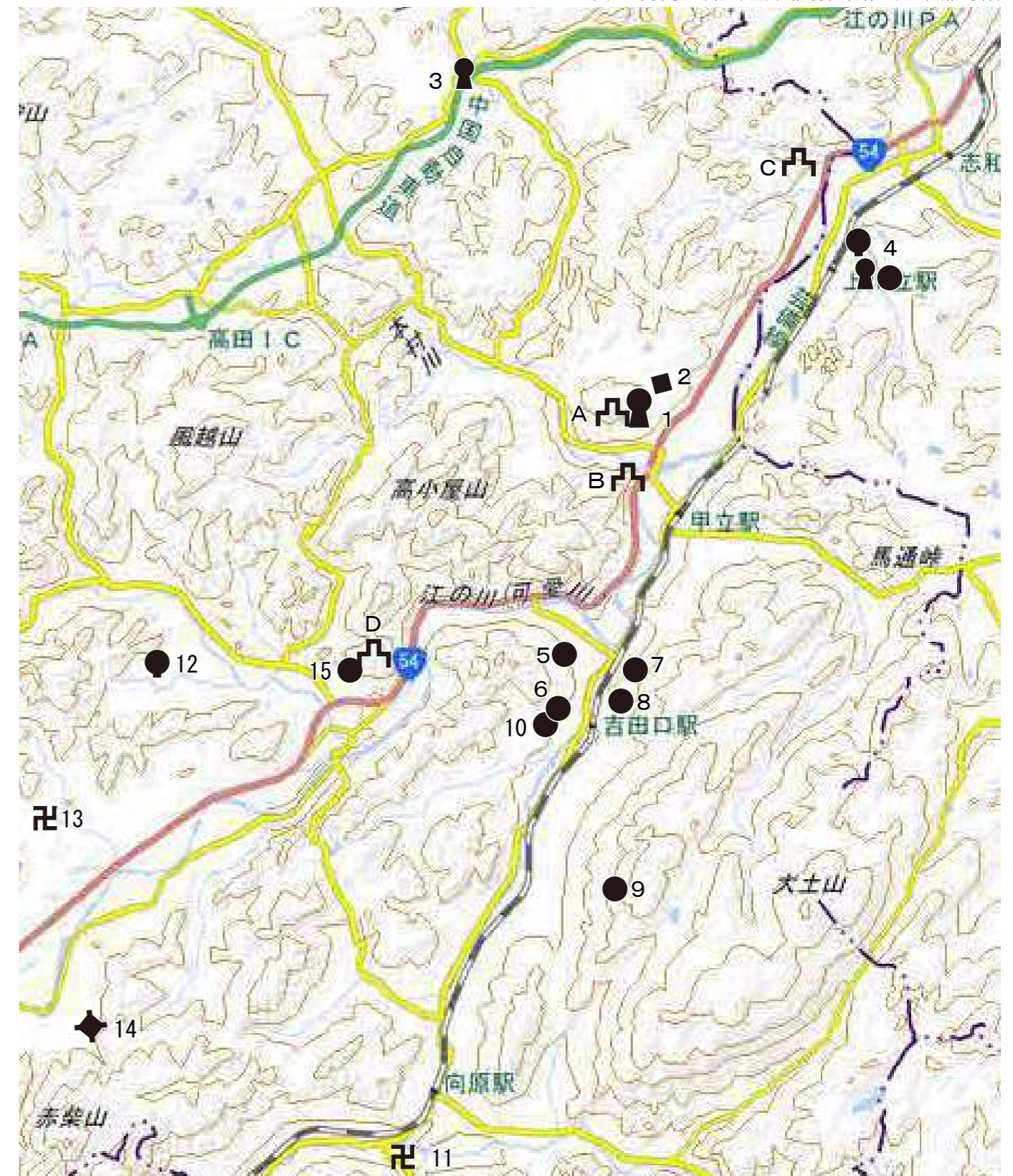
- ①墳丘西側の造出状地形の性格
- ②後円部北西側の構造
- ③後円部墳裾の構造
- ④隆起斜道の構造（後円部第2テラスと前方部墳頂の関係）
- ⑤前方部前面の構造（剣菱状になるか）
- ⑥墳丘北側墳端の確定

整備に向けて遺構確認調査を実施

- ①→斜面地に立地させるための大規模な基礎工事（地山の削り出しと盛土による墳丘造成）で副次的に造出的性格を得た可能性
- ②→後円部北西側の掘り込み位置と後円部第1・2斜面の収束と第2テラス及び埴輪樹立痕、地山造成面、外縁に西側括れ部外方から背面部に至る広大な範囲に敷石。敷石上から大量の埴輪片とともに土師器片が出土。この位置で埴輪祭祀が行われた。
- ③→背面カットの掘り底が後円部第2テラスとレベルが一致。埴輪樹立が想定される。斜面の葺石石材の使い分け
- ④→隆起斜道（前方部墳頂と墓壇がある後円部墳頂を結ぶスロープ状の道）を検出。スロープの両端を石で飾りその内側に2条の埴輪列、さらにその内側に円礫を敷く。後円部第2テラスは前方部墳頂に連続せず隆起斜道に接続する（テラスの平面形はC状）
- ⑤→令和2年度調査
- ⑥→令和2年度調査

3. 史跡甲立古墳の実像を探る

- 出土遺物から
- 検出遺構から



1. 史跡甲立古墳（第1号古墳） 2. 甲立第2号古墳 3. 房後白鳥古墳（市史跡） 4. 上川立七ツ塚古墳群 5. 祇園迫遺跡 6. 青迫遺跡 7. 法恩地南古墳（消滅） 8. 荒神古墳（消滅） 9. 翁平遺跡 10. 内長見遺跡 11. 正敷殿廃寺跡 12. 日南山第1号遺跡 13. 明官地廃寺跡 14. 稲山墳墓（市史跡） 15. 郡山大通院谷遺跡
A. 柳ヶ城跡 B. 五龍城跡（県史跡） C. 祝屋城跡（市史跡） D. 郡山城跡（国史跡）